

No. 3109

オスマン帝国におけるフランシスコ会の活動：
クレシェヴォ修道院所蔵オスマン語文書群（18～19世紀）の分析から

上智大学アジア文化研究所
佐治 奈通子

本研究では、ボスニア・ヘルツェゴヴィナの聖キャサリン修道院（以下、クレシェヴォ修道院）において、修道院アーカイブと所蔵オスマン語文書を調査・再整理し、デジタル化とカタログ作成を行った。

調査の結果、本文書群が 1,620 点のオスマン語行政文書を中心に構成されていること、2002 年に現在の形に再整理されたが、実際には誰も内容読解を行っていないため未整理・未研究の史料群であることが明らかとなった。また史料読解により、40 種類以上の多様なオスマン行政文書から構成されていること、その中には 1856 年改革勅令発布当日に配布された原本や、ボスニアのカトリック共同体の代表がオスマン朝君主に租税免除の継続を訴えた報告書など、歴史的重要性を有する文書が含まれていることが明らかとなった。

オスマン支配時代のボスニアには、本研究が対象とするクレシェヴォ修道院の他に、フォイニツァ修道院、クラリエヴァ・スーチェスカ修道院の 3 つの修道院が存在していた。その内、フォイニツァ修道院については、20 世紀初頭から所蔵オスマン語文書の整理・カタログ化・刊行が進められ、その結果比較的多くの研究が行われているが、クレシェヴォ修道院については、貴重な史料を有しながらもその整理・読解が行われてこなかったため、史料の存在そのものが埋もれている状態にある。本文書群を整理・読解して掘り起こすことは、近代化・西欧化の時代を迎えたオスマン朝について、カトリック共同体の側から観察することであり、非常に有意味である。

今後の課題として、文書の読解・分析を進め、情報のデータベース化を行うこと、それによって、修道院が文書を作成・保管してきた背景や、史料の性格・内容を明らかにすることが必要である。また、フォイニツァ修道院所蔵文書との比較、帝都イスタンブルで保管されたクレシェヴォ修道関連史料との突き合わせにより、本文書群を歴史的な脈の中に位置付けることが必要である。